

琉球大学学術リポジトリ

共同リポジトリ概論

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学附属図書館 公開日: 2010-10-19 キーワード (Ja): 広島大学, 広島県大学共同リポジトリ キーワード (En): HARP, ShaRe 作成者: 尾崎, 文代 (広島大学図書館) メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/18387



共同リポジトリ概論

広島大学図書館 尾崎 文代

fozaki@hiroshima-u.ac.jp

2010.10.8 於 琉球大学
「共同リポジトリの現状と今後～沖縄地域学リポジトリ正式公開を迎えて」

お話しすること

1. 共同リポジトリとは
 - 意義と現況
2. 国内外の共同リポジトリ
3. ShaReプロジェクト
 - システム・運用モデルの分類・改善
 - 共同リポジトリの評価(アンケートより)
4. これからの展開
5. まとめ



自己紹介 広島大学



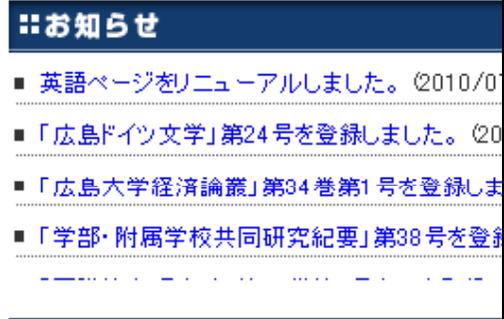
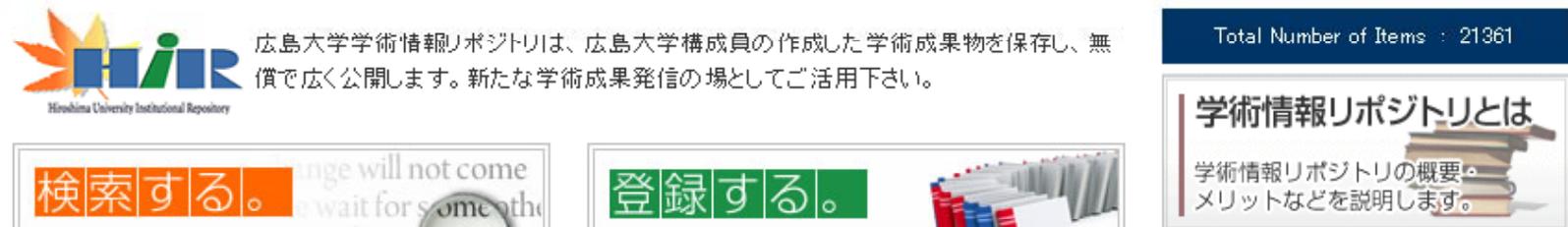
学生数 16,000人
教職員数 3,200人
学部数 11 大学院数 12
キャンパス総面積 315ha

図書館: 3キャンパスに5つ
蔵書数 332万冊
職員数 50名



自己紹介

企画調整(兼)学術情報リポジトリ主担当



2005年	CSI委託事業受託(以降現在まで) ワーキンググループで公開準備
2006年	広島大学学術情報リポジトリ(HiR)公開 主担当設置(2名) CSI委託事業の中で共同リポジトリ構想
2008年	企画調整主担当(主として中国四国地区協議会事務)と兼務 広島県大学共同リポジトリ(HARP)公開 ShaReプロジェクトスタート

<http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/>

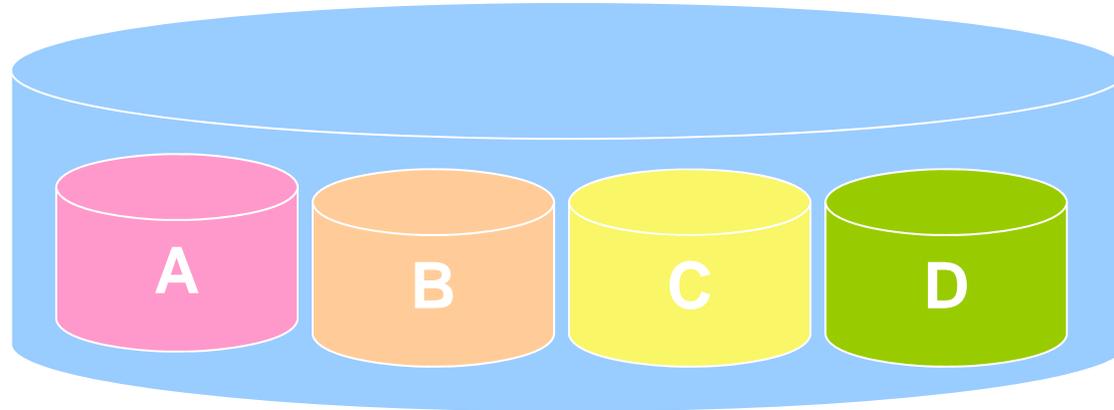
1.

共同リポジトリとは

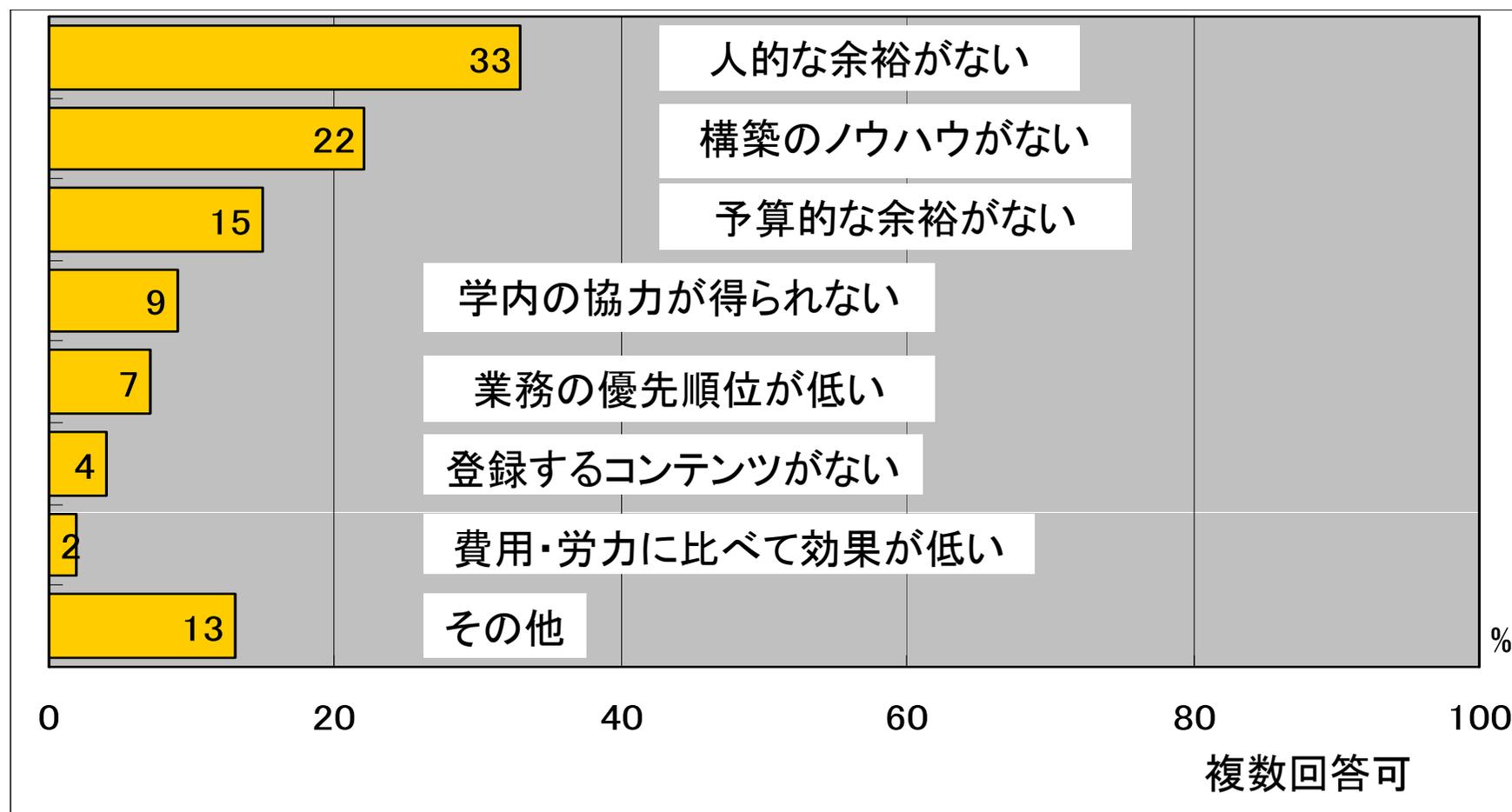


共同リポジトリ

複数機関で生産された教育研究成果等を一つのサーバに蓄積・保存するリポジトリ



機関リポジトリ未構築の理由



プロジェクト報告書 - 国内の地域共同リポジトリの分析 - 2010年3月 p.29

vii.

共同リポジトリ未参加機関へのアンケートより

複数機関による共同リポジトリ

複数機関で生産された教育研究成果等を
一つのサーバに蓄積・保存するリポジトリ



構築費用が抑えられる
技術・ノウハウを共有できる

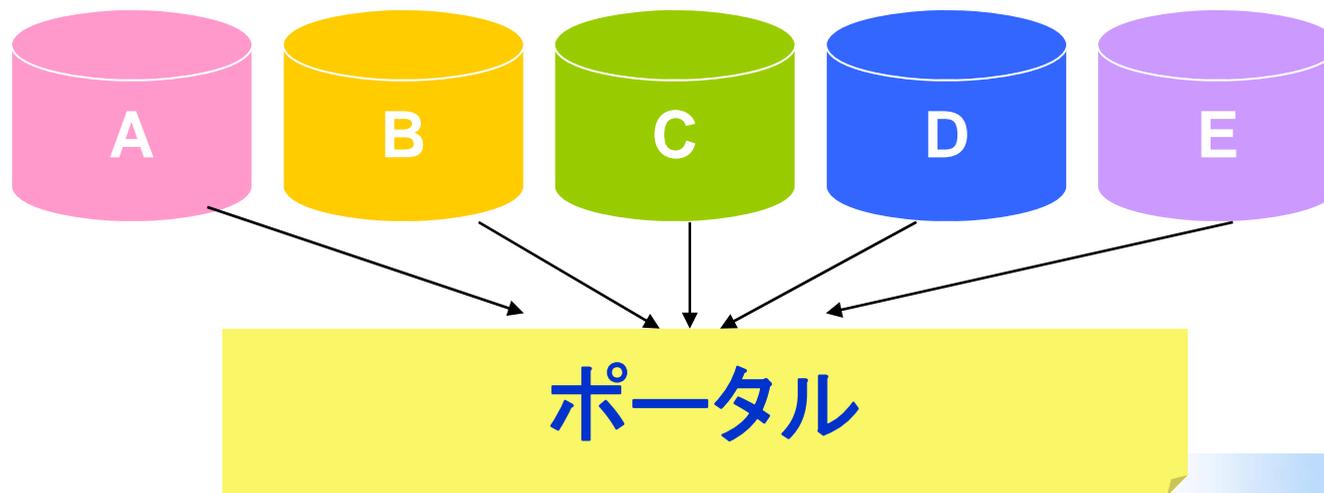


中小規模機関IR導入の障壁を除去
オープンアクセスの裾野拡大



複数機関リポジトリの連携

- 遺跡資料リポジトリ(島根大学ほか)
- 医学系サブジェクトリポジトリ(札幌医科大学)
- 教育系サブジェクトリポジトリ(東京学芸大学)



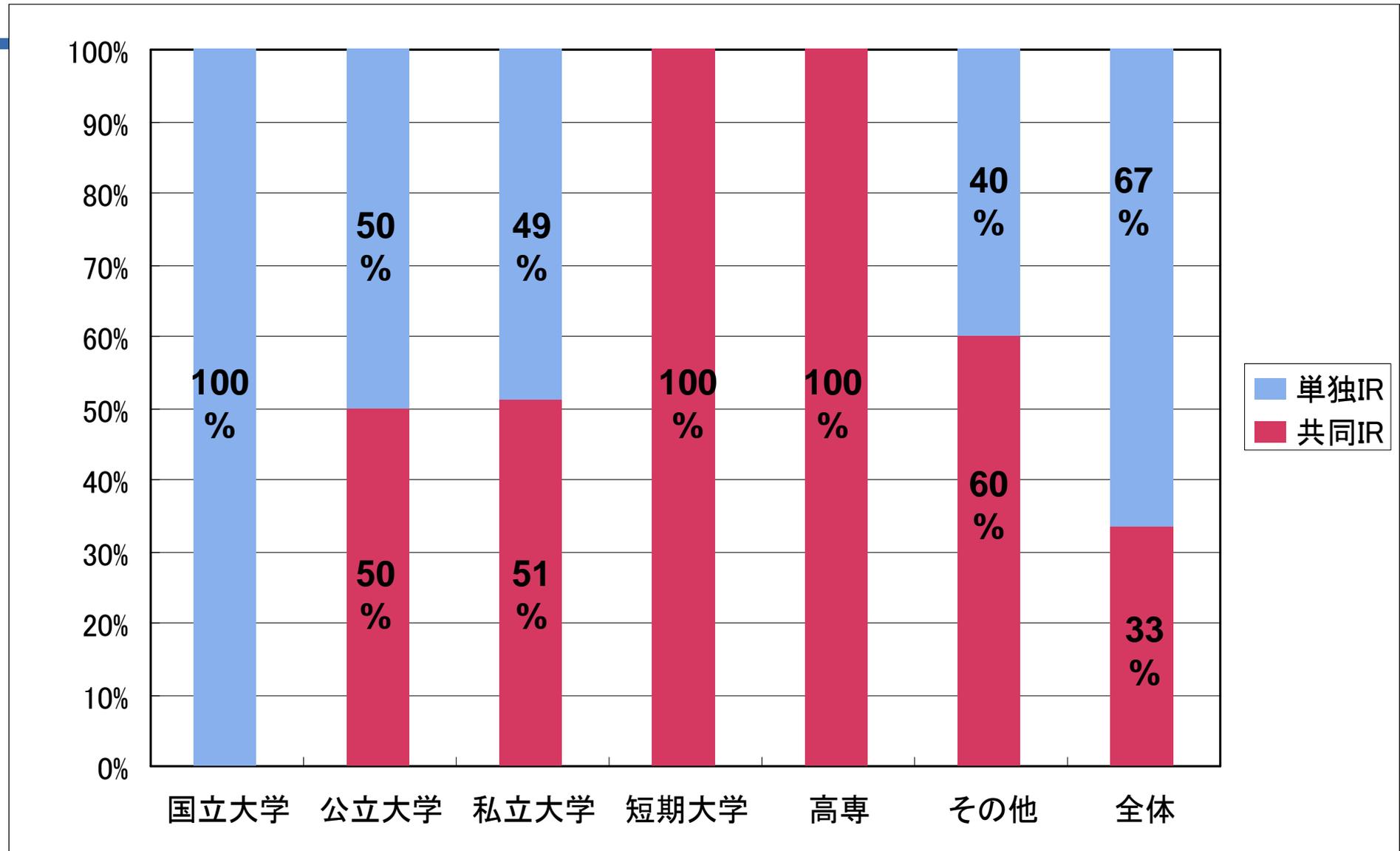
設置種別 国内の機関リポジトリ

	機関総数	リポジトリ構築機関数	うち、共同リポジトリでの構築機関数 (ホスト機関は除く)	リポジトリ未構築機関数
国立大学	86	71		15
公立大学	92	14	7	78
私立大学	595	49	25	546
短期大学	406	10	10	396
高専	64	5	5	59
その他	-	9	6	-

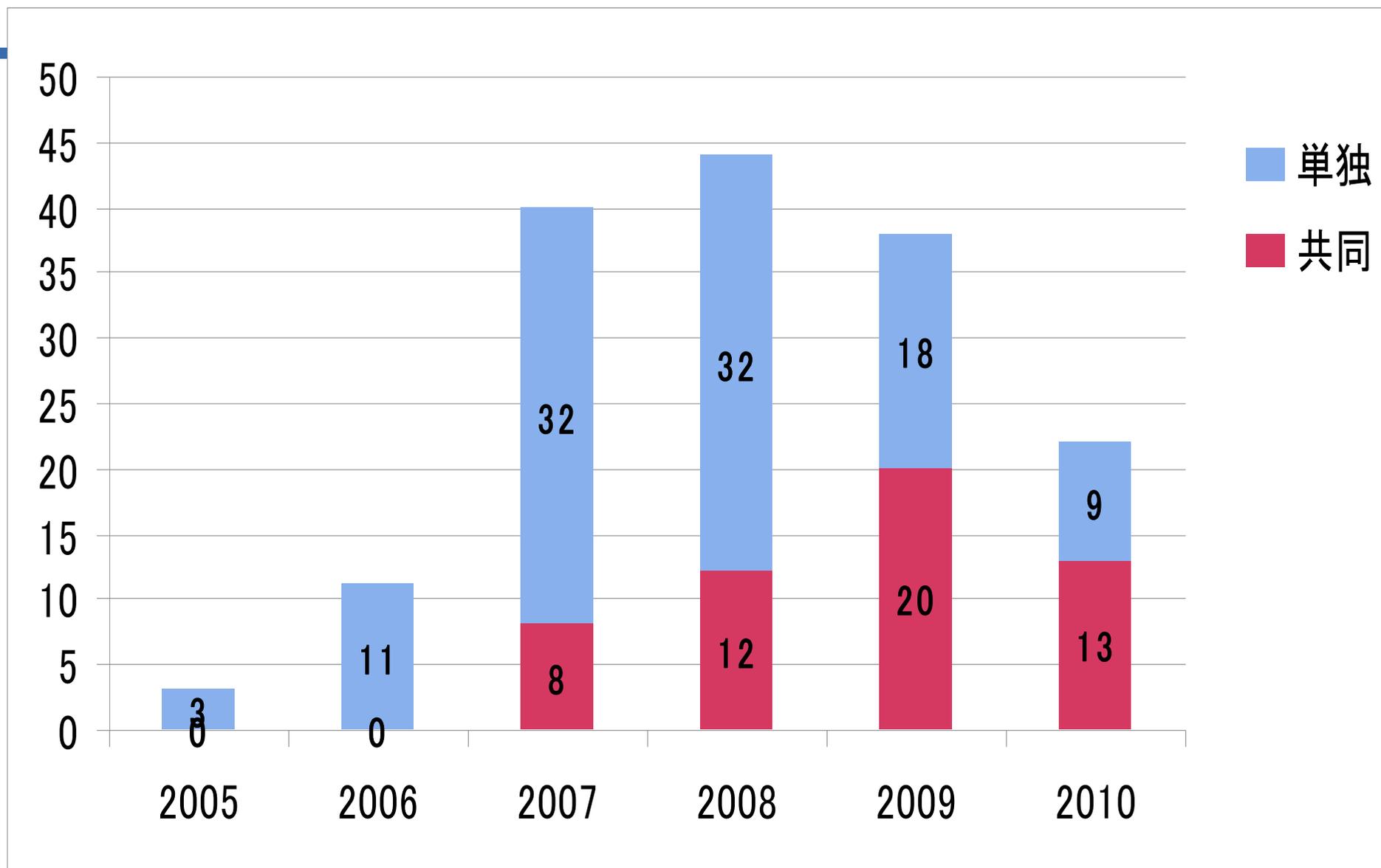
IRDBコンテンツ分析システム <http://irdb.nii.ac.jp/>より算出(参照:2010/08/31)



機関リポジトリ構築数に占める共同リポジトリの割合



機関リポジトリ 年間構築機関数



IRDBコンテンツ分析システム <http://irdb.nii.ac.jp/>より算出(参照:2010/08/31)

2.

国内外の 共同リポジトリ



共同リポジトリの例(イギリス)

- White Rose Research Online
 - リーズ・シェフィールド・ヨーク大学のコンソーシアムに成立
 - 三大学で一名雇用し、全ての業務を行っている。
 - <http://eprints.whiterose.ac.uk/>
- SHERPA-LEAP
 - ロンドンの学術成果のショウケースとなることを目的として
ロンドン大学(UCL)のサーバに各機関のコピーを作成。
 - 2009年現在、13機関。
 - <http://www.sherpa-leap.ac.uk/>



ゆうキャンパスリポジトリ(山形)

- 公開:2007.7
- 参加機関数: 9
 - 山形大学,東北芸術工科大学,山形県立保健医療大学,東北公益文科大学,山形県立米沢女子短期大学,山形短期大学,羽陽学園短期大学,鶴岡工業高等専門学校,山形県立産業技術短期大学校
- 目的
 - 「大学コンソーシアムやまがた」の研究者等による教育及び研究成果物を収集・蓄積・保存し、学内外へ無償で発信・提供する
- 運営主体: 大学コンソーシアムやまがた学術情報部会
- 運営方法
 - システム管理、コンテンツ電子化および登録は山形大学が担当。コンテンツ収集は各参加館。
- ソフトウェア: DSpace
- <http://repo.lib.yamagata-u.ac.jp/>



新潟県地域共同リポジトリ(NiRR:新潟)

- 公開:2009.7
- 参加資格:新潟県大学図書館協議会参加大学
- 参加機関数: 15
 - 新潟大学,長岡工業高等専門学校,新潟青陵大学,新潟医療福祉大学 ほか
- 目的
 - 県内高等教育機関の情報発信促進・連携
- 運営主体:新潟県大学図書館協議会
- ソフトウェア:DSpace
- <http://nirr.lib.niigata-u.ac.jp/>



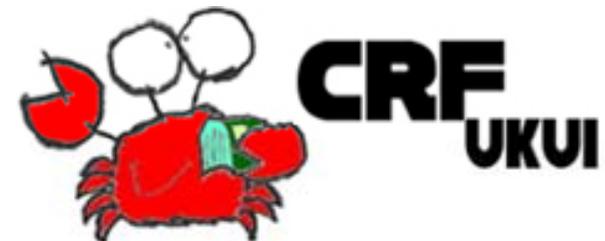
埼玉県地域共同リポジトリ(SUCRA:埼玉)

- 公開:2008.11
- 参加資格
 - 埼玉県大学・短期大学図書館協議会加盟館
- 参加機関数:7
 - 埼玉大学・文教大学・城西大学・埼玉女子短期大学・跡見学園女子大学・国立女性教育会館・駿河台大学
- 目的
 - 埼玉県内における機関リポジトリの普及及び新しい図書館間相互協力の推進
 - 埼玉県の産業・文化・教育に資する地域の情報拠点の形
- 運営主体
 - 埼玉県大学・短期大学図書館協議会・埼玉大学
- ソフトウェア:XooNips
- <http://sucra.saitama-u.ac.jp/modules/xoonips/>



福井県地域共同リポジトリ(CRFukui:福井)

- 公開:2009.3
- 参加資格:
 - 福井県内の大学、高等専門学校、公共図書館、研究機関
- 参加機関数: 10
 - 福井大学、福井県立大学、福井工業大学、仁愛大学、仁愛女子短期大学、敦賀短期大学、福井医療短期大学、福井工業高等専門学校、福井県立図書館、福井県文書館
- 目的
 - 県内の大学等で生産された学術成果物、及び各機関で所蔵している貴重書や広報誌等を一同に公開・発信する
- 運営主体:福井大学
- ソフトウェア: DSpace
- <http://crf.flib.u-fukui.ac.jp/dspace/>



岡山共同リポジトリ(O-AIR:岡山)

- 公開:2009.1
- 参加資格:岡山県内の大学等の学術機関
- 参加機関数:4
 - 環太平洋大学・中国学園・津山工業高等専門学校・就実大学
- 目的
 - 県内学術機関の情報発信促進
- 運営主体:岡山大学
- ソフトウェア: Eprints



Okayama Academic Information Repository

広島県大学共同リポジトリ(HARP:広島)

- 公開:2008.4
- 参加資格:広島県大学図書館協議会加盟館
- 参加機関数: 12
 - 尾道大学・広島国際大学・広島国際学院大学・広島女学院大学・広島工業大学・広島市立大学・広島文化学園大学・広島文教女子大学・広島経済大学・日本赤十字広島看護大学・比治山大学・県立広島大学
- 目的:地域の活性化・社会貢献
- 運営主体
 - 広島県大学図書館協議会
- ソフトウェア: DSpace
- <http://harp.lib.hiroshima-u.ac.jp/>



山口県大学共同リポジトリ(維新:山口)

- 公開:2009.10
- 参加資格:山口県大学図書館協議会参加館
- 参加機関数: 9
 - 山口県立大学・下関市立大学・徳山大学・梅光学院大学・山口福祉文化大学・下関短期大学・宇部高専・東亜大学・山口大学
- 目的
 - 学術機関リポジトリの地域への普及
- 運営主体
 - 山口県大学図書館協議会
- ソフトウェア: Earmas
- <http://ypir.lib.yamaguchi-u.ac.jp/>



沖縄地域学リポジトリ(ORION:沖縄)

- 公開:2009.2
- 参加資格:
 - 沖縄県および県内市町村、公共団体など
 - 沖縄県内に所在する学会・協会・研究会など
- 参加機関数: 3
 - 沖縄農業研究会・琉球医学会・沖縄県大図協
- 目的
 - 地域の活性化・社会貢献
- 運営主体
 - 琉球大学
- ソフトウェア :DSpace
- <http://okinawa-repo.lib.u-ryukyu.ac.jp/>



3.

ShaReプロジェクト



ShaReプロジェクト(2008-2009)

- 共同リポジトリ:モデルの構築と普及
(国立情報学研究所(NII)CSI委託事業)
機関リポジトリの更なる全国展開・裾野を広げるための方策としての共同リポジトリの普及
- 共同リポジトリのシステムと運用モデルの改善・構築
- 担当者育成
- 全国への共同リポジトリ普及支援
- 連携機関
 - 広島大学(代表)・岡山大学・山形大学・新潟大学・埼玉大学・文教大学・福井大学・広島工業大学・山口大学・長崎国際大学・琉球大学

<http://www.lib.hiroshima-u.ac.jp/share/share.html>



システムモデル:ソフトウェア 1. 共有型

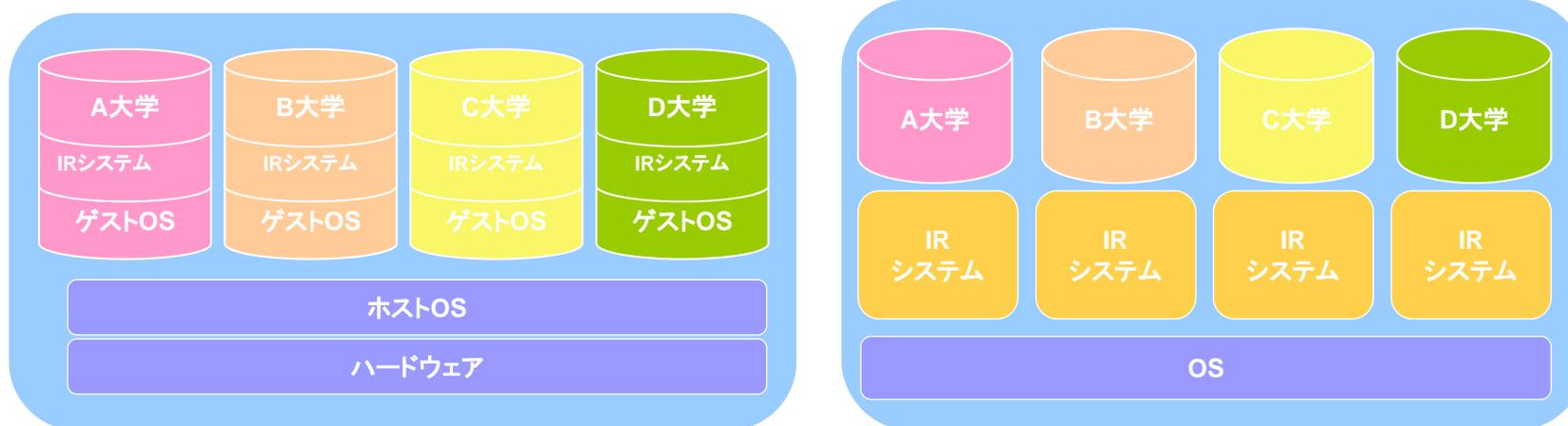
1つのリポジトリシステムを複数機関で共有
(山形・新潟・福井・埼玉・広島・沖縄)



メリット	デメリット
経済的負担が少ない 参加機関のシステム管理負担がない ポータルサイトとして連携感	カスタマイズ→すべての参加機関に影響、意見調整が必要 システム管理機関に負担集中 参加機関の独自性が出しにくい

システムモデル:ソフトウェア 2. 独立型

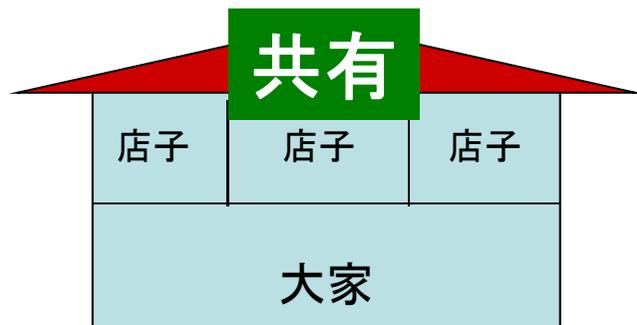
参加機関ごとにリポジトリシステムを占有(岡山・山口)



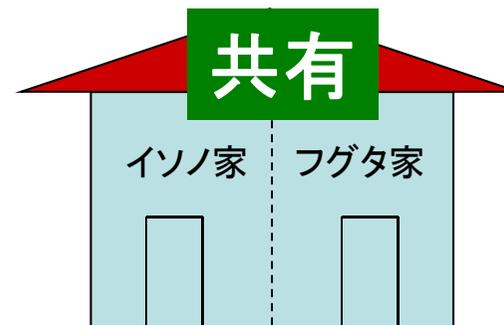
メリット	デメリット
柔軟性→各参加機関の独自性 各参加機関でシステム管理可能→ホスト機関の負担が少ない	システム管理機関に負担集中または各参加機関でシステム業務負担増 ポータルサイトとしての見た目や、一括検索に工夫が必要

システムモデル:ホスト大学との関係

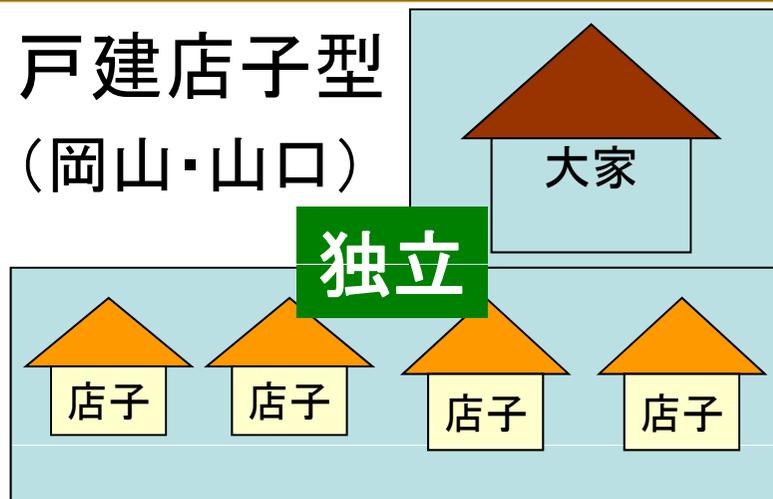
同居一体型(山形・埼玉)



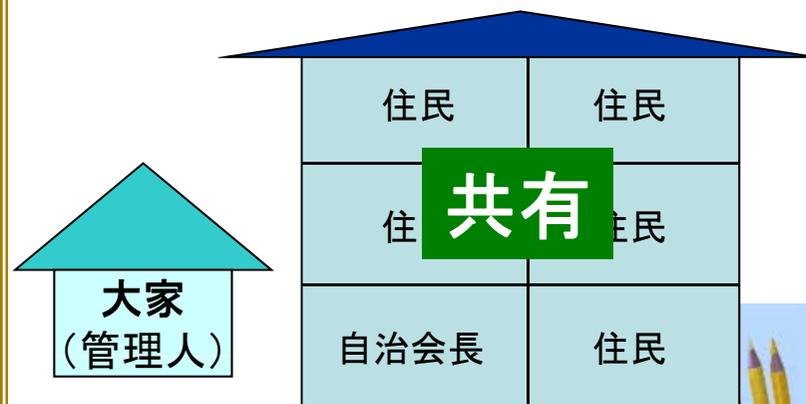
二世帯住宅型(新潟・沖縄)



戸建店子型
(岡山・山口)



別建管理人型(福井・広島)



運用による分類

- 運営主体
 - 県大学図書館協議会・コンソーシアム (5)
 - 大学 (3) 福井・岡山・沖縄
- 参加機関
 - 大学等教育機関のみ (6)
 - 県内学術機関も (2) 福井・沖縄
- 運用経費
 - 均等に徴収 (1) 広島
 - 当面徴収しない (7)



システムモデルの開発・改善

共有型の問題を解決

- 平成20年度
 - VMware serverを用いた独立型システムモデルの構築（岡山共同リポジトリに実装）
- 平成21年度
 - 参加機関ごとのbaseURLの設定
 - 参加機関ごとのアクセス統計の取得・自動メール配信（momiji&momizail）
 - 参加機関ごとの個別画面の開発

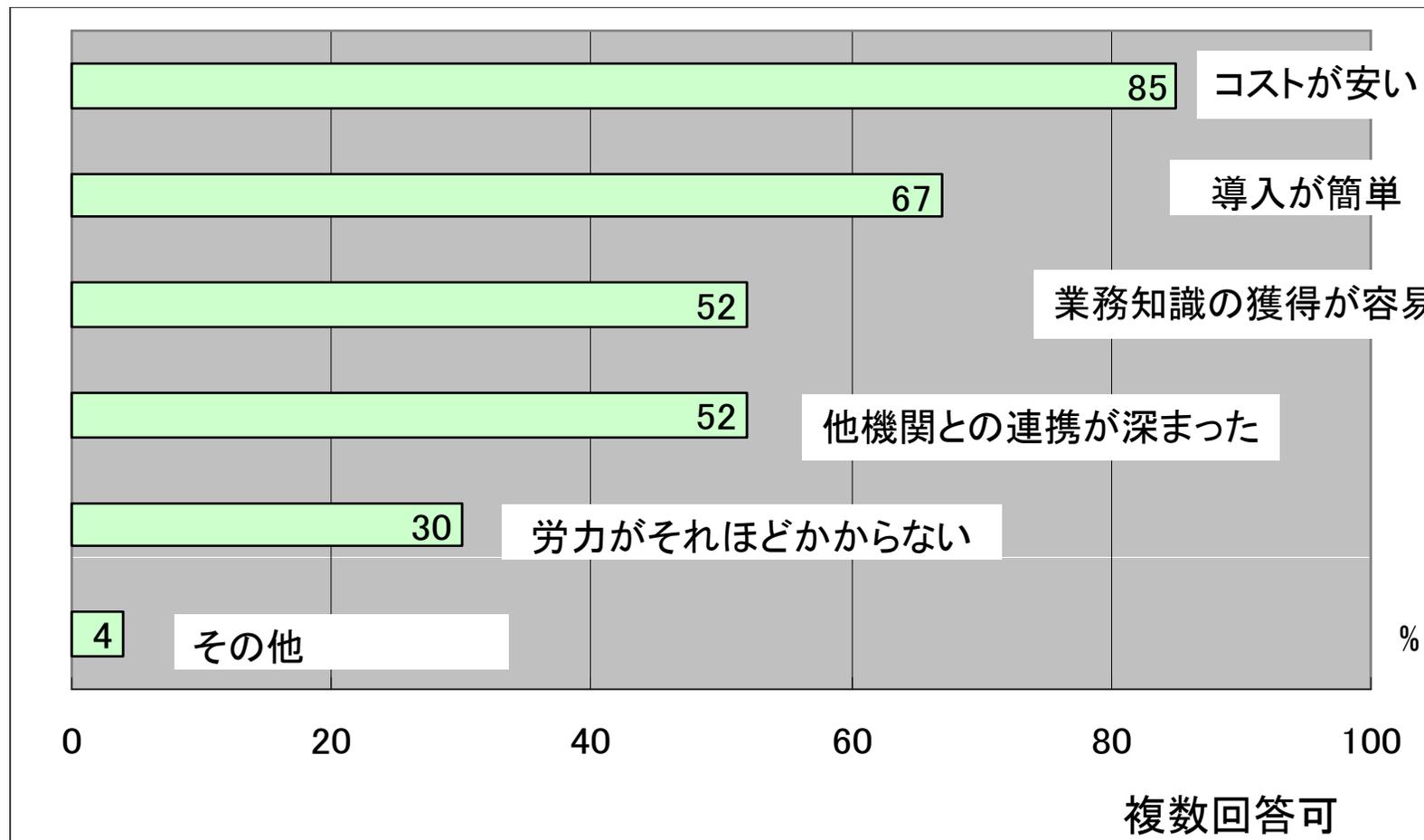


共同リポジトリに関するアンケート

対象機関	機関数	機関別
ホスト機関	8	国立8
参加機関	46	国立1 公立8 私立23 短大6 高専4 その他4
未参加機関 (同地区内)	46	国立0 公立2 私立30 短大10 高専3 その他1

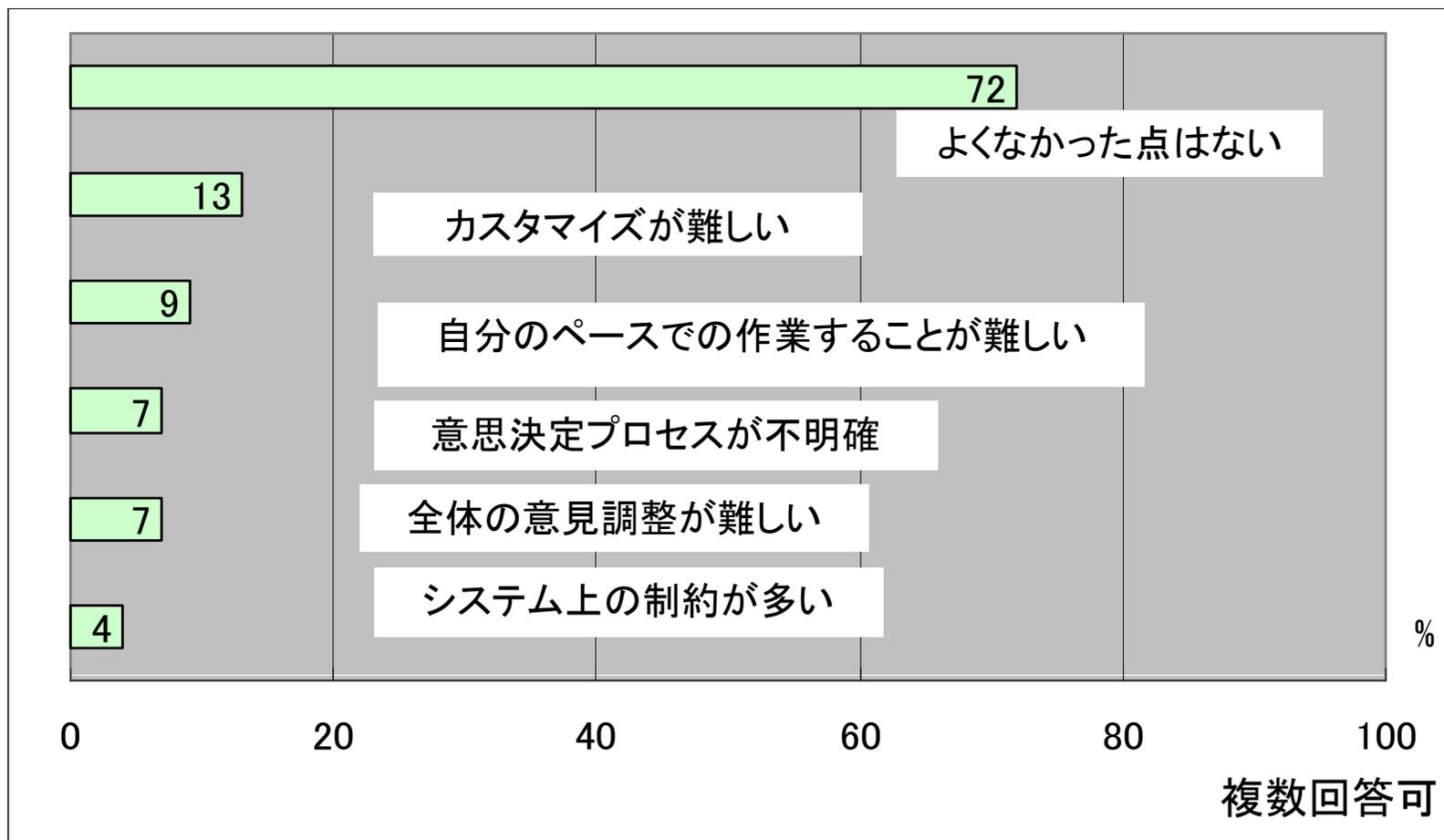
参加機関

共同リポジトリに参加して、よかった点

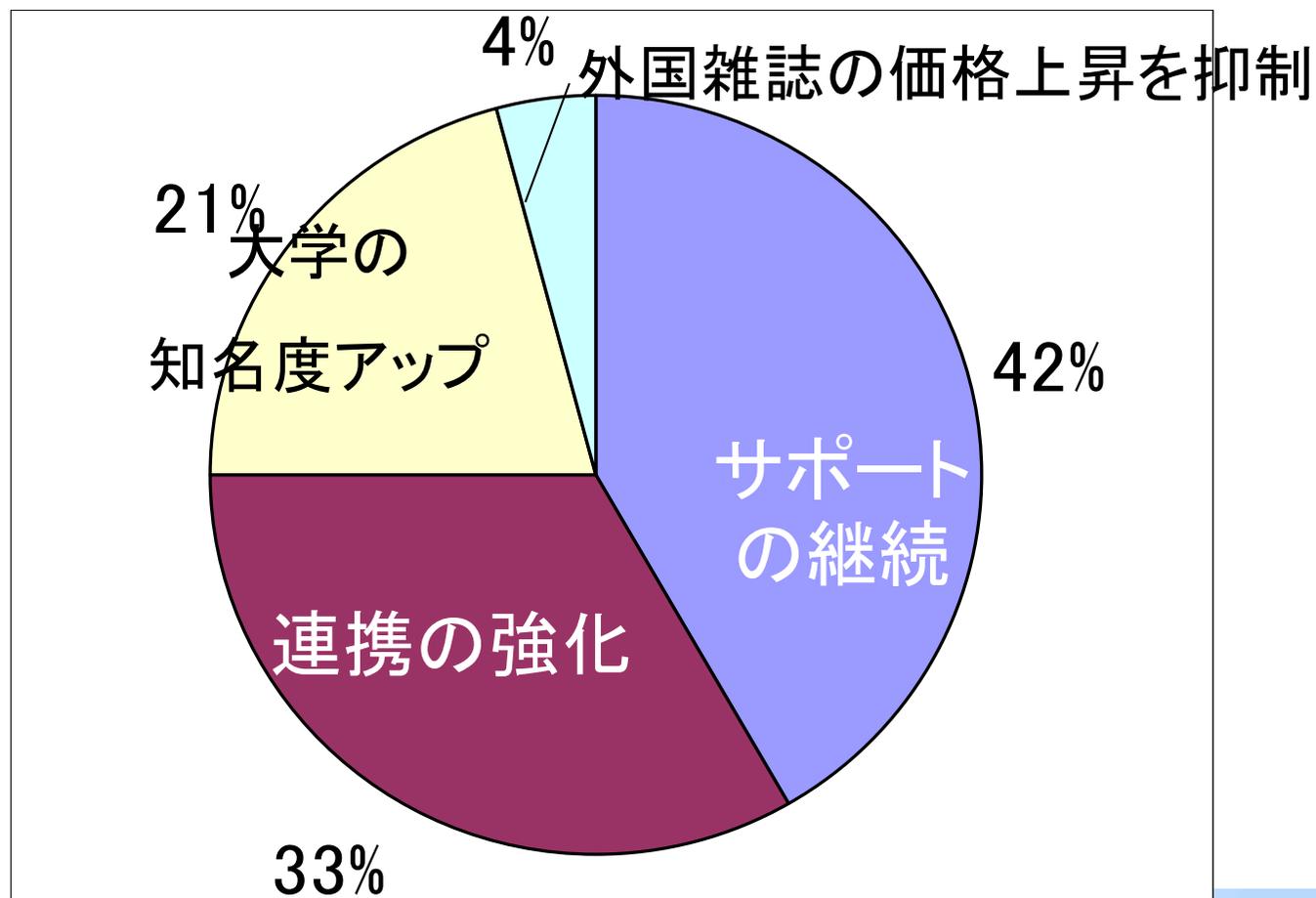


参加機関

共同リポジトリに参加して、よくなかった点



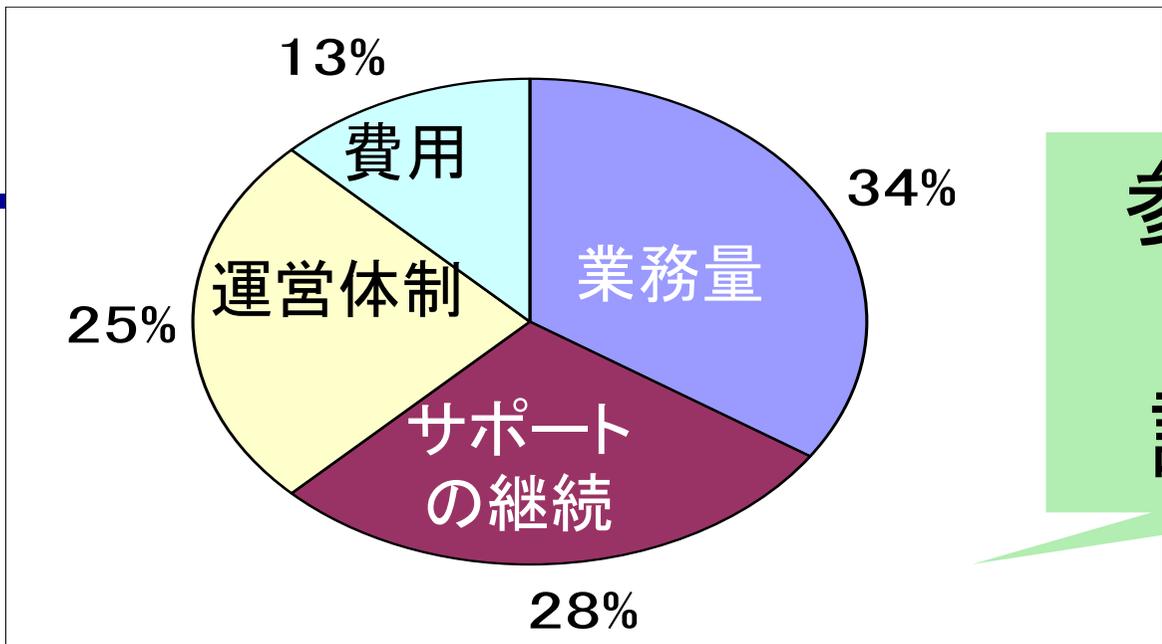
参加機関の期待



プロジェクト報告書 - 国内の地域共同リポジトリの分析 -
2010年3月 p.24 xviii.の記述をもとに作成

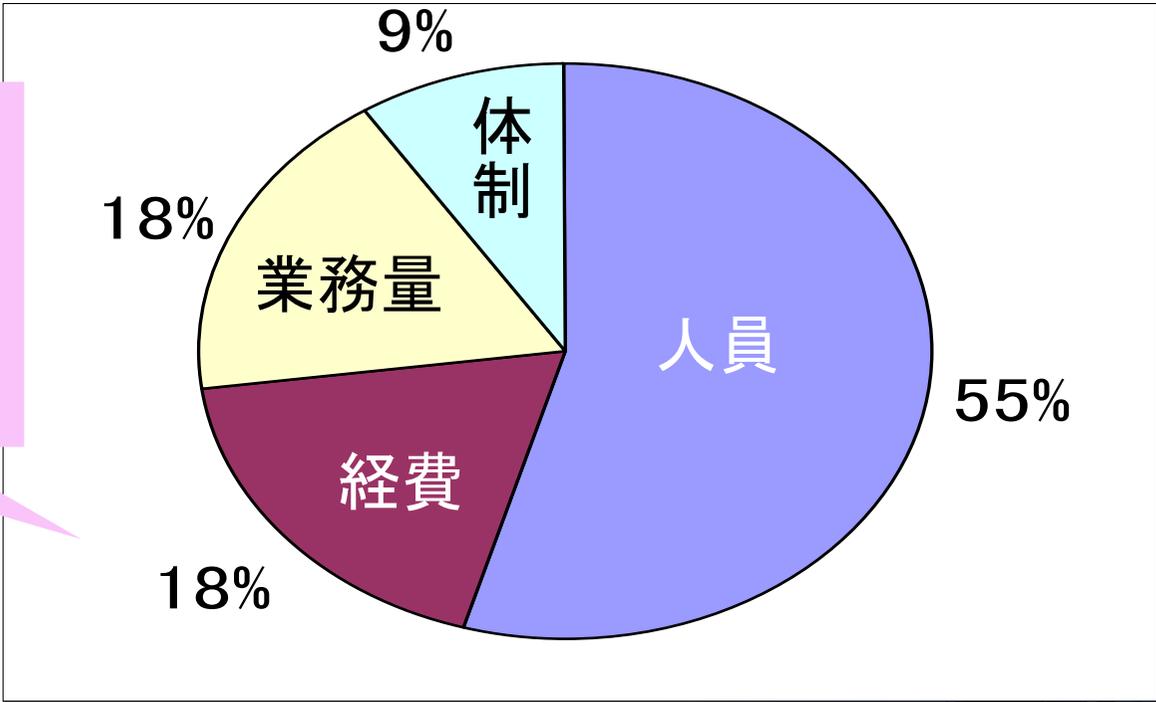
<http://www.lib.hiroshima-u.ac.jp/share/seika/ShaReReport.pdf>





参加機関の
考える
課題・不安

ホスト機関の
考える
課題



持続可能な運営体制の鍵

ホスト機関の役割

- システム等の維持・管理・提供
- 技術サポート
- コンテンツ登録作業の代行
- 参加機関の調整
- 広報活動



大きい。モチベーションの維持。
(地域貢献への実感)

ホスト機関と参加機関の役割分担



コミュニティの活性化



4.

共同リポジトリ これからの展開



ShaRe2プロジェクト(2010-)

機関リポジトリ地域コミュニティの活性化

(国立情報学研究所(NII)CSI委託事業)

- 地域型共同リポジトリを始めとした中小規模機関への機関リポジトリ拡大方策の検討
- 地域の核となる人材育成、各地域での自立したコミュニティ活動の促進
- 国公立等設置団体の枠を越えた学術機関の連携とオープンアクセスの裾野を拡大
- 連携機関
 - 広島大学(代表)・山形大学・信州大学・文教大学・福井大学・広島工業大学・山口大学・長崎国際大学・琉球大学

<http://www.lib.hiroshima-u.ac.jp/share/share.html>



課題：多様化するしくみ

大学図書館の整備及び学術情報流通の在り方について (審議のまとめ)

2.学術情報発信・流通の推進 (2)機関リポジトリ

…各大学等において構築したリポジトリを今後も継続して運営していく上では、大学全体におけるリポジトリ事業の位置付けの明確化、図書館業務としての定着、大学独自のシステムの構築と維持体制の整備などが課題として挙げられる。

- ・**独自機関での構築が難しい機関のための共用リポジトリのシステムを構築**
- ・研究者自らによる論文の掲載を促進するソフトウェアの開発等
- ・機関リポジトリの重要性についての認識を高める活動(特に人文社会科学系分野)
- ・機関リポジトリの掲載論文数の増加や質の向上(大学や研究機関のOA義務化など積極的な働きかけ)
- ・図書館職員の専門性の向上

(平成21年7月科学技術・学術審議会学術分科会)

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/attach/1283003.htm



課題：担当者育成と普及の継続

機関リポジトリ

共用
リポジトリ

個別
リポジトリ

リポジトリを
核とした
コミュニティ

地域共同
リポジトリ

サブジェクト
リポジトリ

オープンアクセスの
拡大と、顔の見える
距離での連携強化

5.

まとめ



まとめ

機関リポジトリ

- 機関の学術研究成果の発信・保存
- オープンアクセスによる学術情報流通活性化

共同リポジトリ

- オープンアクセスの裾野拡大
- 連携によるコミュニティ形成
- 地域連携・地域貢献
- 図書館活動活性化への契機



参考

- DRF (デジタルリポジトリ連合)
<http://drf.lib.hokudai.ac.jp/drf/index.php?Digital%20Repository%20Federation>
- ShaRe (共同リポジトリプロジェクト)
<http://www.lib.hiroshima-u.ac.jp/share/share.html>
- 学術機関リポジトリ構築支援事業 (国立情報学研究所)
<http://www.nii.ac.jp/irp/>

